

防災重点ため池決壊 リアル

瀬田東学区住民

円滑避難へ想定動画制作

台風シーズンを前に、大津市の瀬田東学区の住民が、学区内の「防災重点ため池」が決壊した場合の浸水状況を示す動画制作や、周辺の地形を実感できるジオラマづくりに取り組んでいる。「住民の防災意識を高め、災害時の円滑な避難につなげてもらいたい」と話している。



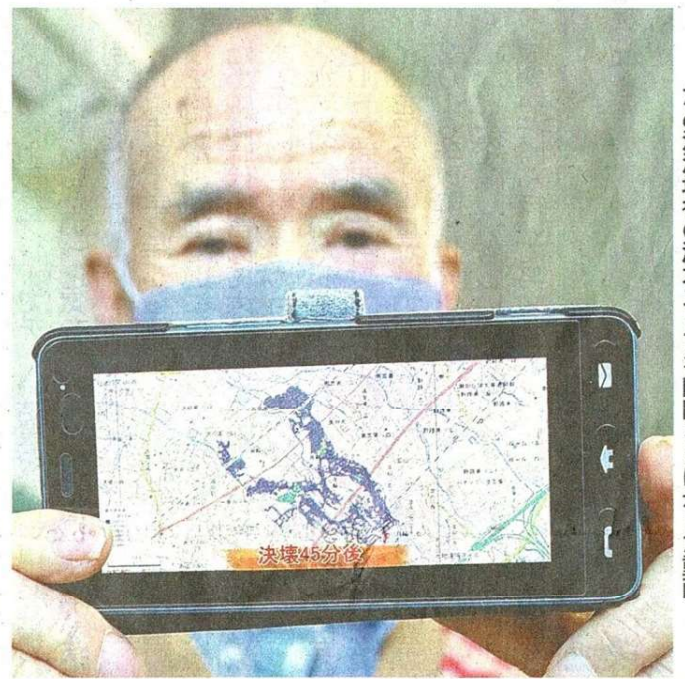
地形やため池の位置を表したジオラマを制作する瀬田東文化振興会のメンバー（大津市一里山3丁目・瀬田東市民センター）

防災重点ため池は、家屋や公共施設に近く人的被害の恐れがある池で、自治体が国の基準に沿って選定し、周知に努めている。大津市は162カ所と県内で最も多く、瀬田東学区では7カ所が危険性が高いとみられることから、住

地形ジオラマづくりも

民でつくる瀬田東文化振興会が、市のハザードマップなどを参考に被害の恐れを分かりやすく伝えるために企画した。7カ所の中には、決壊から30分でJR東海道線沿線に水が達するとされる一里山大池や、1時間で学区外の瀬田北小まで浸水する月輪大池などがある。動画は昨年秋に完成し、7カ所それぞれについて決壊から1時間後

まで5分刻みで浸水している様子を地図上で表した。動画投稿サイト「ユーチューブ」上のチャンネル「pink and ad」で公開している。3月下旬からはジオラマづくりをスタート。住宅地図などを基に、およそ1500分の1サイズで学区内の土地の起伏やため池の位置関係を再現した。6月の完成



ため池決壊後の浸水エリアを時間ごとに示した動画

(杉原慶子)